



# 平成26年度 町政執行方針

羽幌町長 舟橋 泰博

## 〈はじめに〉

本年は、町長就任から4期16年目を迎えた任期最後の年となりますが、これまで地域経済の停滞や過疎化、少子化、高齢社会への対応及び地域の活性化など、諸課題の解決に向け、議会及び町民の皆様とともに取り組んでまいりました。

本町では、昨年4月に羽幌港中央ふ頭の供用が始まりました。これに伴いフェリーターミナルが移転し、近隣に北るもい漁業協同組合の新事務所や直売所がオープンしたことで、

港における交流活動が長期化し、多くの観光客が訪れ、利用者からも大変喜ばれております。また、秋にはオロロン農業協同組合の新事務所である地域農業振興センターが完成し、施設内には農業関連機能が集約され、利便性や機能性の高い施設となるなど、昨年は主要産業である農水産業にとつて大きな節目を迎えた年となりました。また、観光面においても、はぼろ甘エビまつりへの来場者が4万6,000人を超えたほか、テレビ等の媒体で天売島・焼尻島の観光情報等が放送される機会が増加するな

ど、本町の魅力が広範囲にわたって周知された年でもありました。このため26年度は、交流を求めて来町される方々への「おもてなし」とそれを受け入れる「まち」の体制づくり、そして、受け入れる町民皆様の生活環境が豊かになるよう努めてまいります。

事業の実施に当たりましては、限られた予算であるものの前例に捉われないこと、発展性があり事業効果の高いものについては、積極的に推進していくと考えておりますので、議会及び町民の皆様のご協力を賜りたくよろしくお願ひ申し上げます。

## 地域の自然が育む豊かなまち

### 〈自然環境の保全・海鳥保護対策〉

自然環境の保全につきましては、北海道海鳥センターを拠点に館内展示の充実や各種観察会、講習会等を通じて引き続き普及啓発活動を進めるほか、ジュニアレンジャーなど次代を担う子ども達の育成に努めてま

### 〈再生エネルギーの導入推進〉

エコアイランド構想実証プロジェクトは、24、25年度の2箇年にわたり天売島において、離島における電気自動車の導入と再生可能エネルギーの活用に係る実証試験を中心に行い、電気自動車及び再生可能エネルギーともに導入に係る可能性が得られたところであり、このため、電気

自動車については、島民の皆様による購入促進を図るため、26年度から購入費用の一部助成を開始いたします。再生可能エネルギーについては、天売島における災害対策として、島内最大の避難所であります天売小中学校の敷地に小型風車や太陽光発電設備等を設置し、それらで発電された電気をバッテリーに蓄え、非常時に避難所が必要となる設備用として使用するものとしております。なお、日常発電された電気は、天売小中学校で使用し、電気量の削減によるCO2排出量の抑制に努めるものとしております。

を継続して勤務していただける医師も出てきておりますことから、成果の一つであると捉えております。26年度におきましても、生活環境の整備と併せ、支援体制を継続してまいります。

看護師等確保の支援策として、昨年度より看護師・助産師を目指す学生に対する修学資金の貸付制度を実施しており、現在、2名の看護学生に対し支援を行っております。

昨年は、姉妹都市、石川県内灘町との交流の中で両町における地域医療の現状や課題、問題点等について認識を深めることができました。今後、内灘町との交流事業を継続し、地域の保健・医療等に

係る相互理解を深めていきたいと考えております。また、医療体制が地理的に不利な状況にある離島地区の住民に対して、昨年1月から救急時における費用の一部助成を実施し、医療に起因する負担を軽減するとともに

## 誰もが居場所と生きがいを持って暮らせるまち

### 〈地域医療体制の整備〉

本町の医療を取り巻く現状は依然厳しく、町内の医療機関に勤務する医師や看護師の確保及び充実を図ることは、大きな課題となっております。

医師確保の支援策であります研究資金等の貸付制度は、多くの医師が本資金を活用しているほか、複数年

に、妊婦健診に係る交通費等の助成についても継続してまいります。

### 〈保健事業〉

本町においては、生活習慣病などが増加傾向にあり、また、その予備軍となる人たちも多くみられることから、自分の健康状態を正しく知る予防の機会とするため、健康相談事業をはじめ各種健診・予防接種などを実施してきております。

子宮頸がん予防・ヒブ・小児用肺炎球菌のワクチン接種が、昨年度より定期接種化されましたが、新たに水ぼうそう・高齢者肺炎球菌のワクチン

接種についても定期接種化される方向性が示されており、医療機関と連携しながら接種体制を確保してまいります。

更に、すこやか健康センターを拠点に実施している子育て支援・発達支援などの事業の充実・強化のため、24年4月に



います。また、町民有志による環境保護活動を支援し、子どもから大人まで地域の自然と親しみ、自然を守る活動を推進いたします。

天売島におけるオロロン鳥の繁殖状況であり、昨年は11羽のヒナを確認しましたが、最終的には9羽の巣立ちになりました。なお、3年連続の巣立ちの成功は、10年ぶりとのことであり、この成果は、環境省をはじめとした関係機関の粘り強い保護及び増殖活動によるものであり、今後も順調に繁殖数が増加することを期待しているところであります。

臨床心理士を配置し、将来的には、子どもから高齢者までライフサイクルに応じた心の健康づくり活動を展開していける体制づくりを見据え、発達評価などの技術研鑽に努めるとともに、健康センター内に整備した相談室を活動基盤とした心理相談を受ける環境づくりを進めるなど、段階的に準備を進めてまいります。

### 〈高齢者福祉〉

本町の65歳以上の人口は、全体の約37.5%となり少子高齢化が一段と進んでおります。第5期高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画が最終年度を迎えますが、その理念の下、民生委員、町内会、ボランティアなど地域住民のご協力とご支援をいただきながら、高齢者の皆様の自立と社会参加の支えとなる生活支援事業や生きがい対策事業を継続的に進めるとともに、老人クラブや高齢者事業団をはじめとする高齢者の自主的な活動を支援してまいります。

また、社会福祉協議会やボランティアセンターには、高齢者をはじめとする多くの福祉事業を担っていただいておりますことから、26年度

においても財政措置等を行い、組織の充実と自主的運営を助長してまいります。

特別養護老人ホーム「しあわせ荘」につきましては、日頃から指定管理者との連携を密にし、施設の効果的運用と利用者のニーズに対するきめ細かで質の高いサービス提供を行ってまいります。

介護保険事業につきましては、26年度は、第6期計画の策定年であり、地域の実情に即した計画の策定に努めてまいります。更には、地域包括支援センターを核として、高齢者の方の相談窓口機能と介護予防事業を展開いたします。

夫婦世帯やひとり暮らし世帯が増加していることから、成年後見制度の普及啓発を進め、高齢者の方の権利擁護に努めていくとともに、日常生活の見守りや高齢者虐待防止、災害発生時における救済など、町内会、警察署、消防署をはじめとする関係機関、団体等との連携を深め、高齢者に対する支援体制づくりを行ってま

います。

#### 〈障がい者福祉〉

26年度からは、これまでの「障害程度区分」が、障害の多様な状態に応じて必要とされる標準的な支援の度合いを総合的に示すものとして「障害支援区分」に改められ、特性に応じた支援ができるようになりま

す。はばる障がい者福祉計画の基本理念である「障がいのある人もない人も共に生き生きと生活できるまちづくり」を念頭に置き、地域の中で必要な障がい福祉サービスが受けられるよう、地域住民や関係機関、団体等のご理解とご協力を得ながら支援を進めてまいります。

#### 〈児童福祉〉

生活、仕事、子育て全てを心



## 平成26年度町政執行方針

援し、誰もが希望する幼児教育と保育サービスが受けられるように取組を進めるとともに、25年度に実施したニーズ調査を基に、27年度からの子ども子育て支援事業計画の策定を進めてまいります。近年、児童を取り巻く様々な問題が増加しておりますが、育児相談や育児教室等の充実を図ることにより、育児に対する不安や悩みを解消できる環境を整備し、また、要保護児童対策地域協議会を

活用した虐待防止や早期発見に努め、迅速で的確な対応を図ってまいります。

27年度の子どもの子育て支援法の施行に向け、地域型保育事業の認可基準の検討などを推進してまいります。また、26年度より新たに、育児疲れ等による保護者の心理的・身体的負担軽減を目的とした一時預かり事業への補助や、民間保育所等での障がい児の受入れを進めるための保育士加配に対する補助を通じ、児童福祉の向上を図ってまいります。

町立羽幌保育園の民営化については、これらの状況を踏まえ、すべての子どもの健やかな育ちを実現するために、最善の方法を検討し、早期実現に向け取り組んでまいります。

#### 〈国民健康保険事業〉

国民健康保険制度は、制度創設以来、国民皆保険制度の基盤として地域住民の医療の確保、健康の保持増進、福祉の向上等に重要な役割を果

たしてきました。しかしながら、加入者の少子高齢化の進展、生活習慣病の増加による疾病構造の変化、医療の高度化など社会構造の変化により、医療保険財政は依然厳しい状態が続いております。

また、昨年成立した持続可能な社会保障制度の確立を図るための改革の推進に関する法律では、国保運営の都道府県単位化に向けた環境整備が盛り込まれるなど、国保を取り巻く環境は、大きな変革期に差し掛かっております。

このような状況から、国保事業の健全で安定的な運営を図るため、保険料の徴収強化や口座振替の加入促進などによる保険料の収納率向上

特定健康診査・特定保健指導の受診促進等による医療費適正化及び保健事業の推進など、関係機関と連携し取り組みを進めてまいります。

#### 〈広報・広聴〉

広報はばるについては、内容の充実を図るとともに、リアルタイムに情報発信ができる町ホームページを積極的に活用しながら「わかりやすく」「親しみやすい」情報伝達に努めてまいります。

また、町職員が地域と行政とのパイプ役となり情報の共有化に取り組んでいる地域情報連絡員制度を活用し、コミュニケーションを深めてまいります。広聴活動では、町民が主体となり、行政と協働のまちづくりを進める観点から町政懇談会を開催し、多数の町民が参加できる体制づくりに努めてまいります。

#### 〈広域行政の推進〉

22年度に留萌管内7町村による留萌地域電算共同化推進協議会を組織し、協議会の目的である7町村統一による電算共同化、自治体クラウド連

## 安心して魅力的な田舎暮らしができるまち

#### 〈農業の振興〉

農業を取り巻く環境は、農家戸数の減少、後継者不足、就農者の高齢化といった生産構造の脆弱化や活力低下が懸念されるなど深刻な状況となっております。

農業後継者対策として、23年度より就農のための農地拡大に対し支援を行う町独自の制度を創設いたしました。更なる後継者対策について関係機関と連携し進めてまいります。

エゾシカなど有害鳥獣に対する取組につきましては、狩猟免許取得にかかる費用の一部補助など、新たなハンターの育成に努めるほか、新たに鳥獣被害対策実施隊を設置いたしました。実施隊については、鳥獣被害防止協議会等の関係団体と連携し、エゾシカの個体数調整、被害防止に向けた取組を実践してまいります。

農業・農村整備につきましては、今後も国の新制度であります日本型直接支払制度により、引き続き支援を行ってまいります。羽幌二股ダム、羽幌ダムなどの農業水利施設におい



て、老朽化による改修等が必要な箇所については、国、北海道と連携し適切な管理及び改修を行い、地域農業の生産性の安定と向上に資するよう対策を進めてまいります。

今後とも予想される国の制度改革等に対しては、地域の実態に即した形での農業振興を展開してまいりたいと考えております。

畜産振興につきましては、草地改良、造成事業による安全で高品質な牛乳の安定的生産体制の確立を目指すとともに、酪農ヘルパーの活用助成など、ゆとりある酪農経営に向けた対策を推進してまいります。

焼尻めん羊牧場については、指定管理者制度の導入により新たな市場の開拓とブランド肉としての魅力アップを行ってきた結果、近年、プレ・サレ焼尻の名称で知名度が向上してきております。また、道内では、種畜の重要な供給基地として位置付けられ、安定的な供給が期待されております。観光面においても、離島ならではの自然と調和のとれた絶景の

一端を担っており、焼尻島を訪れる人々に大変喜ばれております。更に26年度には、約36haの草地改良が完了する予定であり、栄養価の高い牧草を与えることができるようになるため、より肉質の良いめん羊の提供につながっていくものと期待をしております。

林業の振興につきましては、町有林内に森林作業道を整備し、今後の森林施業の効率化を図るほか、災害を未然に防ぎ、更に良質な木材を生産すべく計画的に除伐や下刈を行い、適正な維持管理と整備を進めてまいります。民有林につきましても、民有林除間伐奨励事業や民有林普及事業等町独自の助成を行い、地域森林の振興に努めてまいります。

北るもい漁業協同組合における25年の漁獲事業計画達成率は約110

#### 〈水産業の振興〉

を新たに加え、地域経済の活性化を図りたいと考えております。

中小企業の育成振興を図るための特別融資制度については、昨年4月から貸付枠を運転資金、設備資金ともに倍増させた結果、大幅に利用額が増加するなど、中小企業者の金融の円滑化と利便性向上が図られているものと考えております。なお、26年度末で期限を迎える利子補給率の特例措置につきましては、地域の経済状況を見据えながら、早い時期に方向性をお示ししたいと考えております。

商業複合施設「ハートタウンはほろ」につきましては、懸案となっていた1階空きスペースに大手生鮮食品

#### 〈商工業の振興〉

資源の保護と種苗放流による資源増大を基本とし、消費者ニーズを取り込みつつ、漁業者及び関係団体と連携し、水産業の振興に努めてまいります。

商工会によるプレミアム商品券発行事業は、開催時期を従来の年末から売上低迷期と言われる1月及び2月に変更し、スタンラリーを同時開催いたしましたところ、従来とは異なる多様な業種で利用されるなど、一定の成果があったものと考えております。現在、商工会において本事業の検証が行われておりますが、地域経済への波及効果の状況によつては、同様に売上低迷期と言われる夏場における事業実施を期待しております。

企業誘致については、町外企業の進出を促す助成制度として、企業立地に係る対象業種の増加や補助金額の拡大等を行うとともに、町内事業者の活力を生かすため、創業者支援、新製品開発への助成、空き店舗対策など、町内事業者を対象とした助成制度



## 平成26年度町政執行方針

%で、羽幌地区11.4%、天売地区9.7%、焼尻地区10.3%となりました。また、組合全体の総漁獲量は、前年比マイナス1.682トンでありましたものの、魚価高の影響により4億7,500万円の増となっております。しかし、燃油等の高騰がひびき、漁家経営が圧迫されているものと推察しております。そのような経営環境の中、水産業の6次産業化を推進するため、おらのまち産地協議会を通じ一層の支援を行うほか、



後継者育成、新規就業者対策についても、船舶免許取得や漁業機器等の購入助成を継続し、経営の安定化に努めてまいります。

日本海沿岸に來遊するトド等による漁業被害対策として、被害を受けた漁業者に貸与する刺網購入費の支援を引き続き行うほか、国による対策を漁業関係者と連携して要望してまいります。

天売・焼尻地区におきましては、離島漁業再生支援交付金事業を活用し、漁業者との協議の中で漁場生産力の向上や創意工夫を活かした取組を推進するとともに、25年度からは離島活性化交付金事業により離島からの輸送費に対して助成を行っており、これらの事業により引き続き離島漁業の活性化を図ってまいります。

また、26年度からは、浜の活力再生プラン事業により燃油活動推進事業・省エネ機器等導入推進事業等を、北るもい漁業協同組合と連携し推進したいと考えております。

今後、漁業経営安定のため、水産

スーパーが入居することが決定いたしました。本施設を中心市街地の核として再生させ、町民の利便性向上や商店街への賑わいを取り戻すためにも、町有化による施設運営の安定が必要であると考えております。今後は、営林署跡地の活用や近隣商店街との連携により地域の活性化を推進してまいります。

#### 〈観光振興〉

旅行者のニーズや動向をすばやく的確に察知しながら観光協会などと連携し、地域に活力と潤いがもたらされる観光事業を行ってまいります。

主な観光イベントについて申し上げますと、昨年4万6,000人を迎えた「はほろ甘エビまつり」が6月に予定され、地場産品のPR、集客、経済効果を目指すイベントとして期待をしております。

焼尻島では、貴重な焼尻めん羊肉が味わえる「サフォークまつりイン焼尻」が、島内若者を中心となり新たに発足した実行委員会の主催により6月に開催されます。また、7月から8月にかけての約1箇月間は、焼尻島をまるごと活用した「謎解き・宝探

し」事業を予定しており、自然あふれる緑の島そのものを観光資源とした体験イベントの開催により交流人口の拡大を図ります。更に、島内の観光案内板の更新を行い、よりわかりやすい案内ができるよう整備を進めてまいります。

天売島では、獲れたてのウニや新鮮な海産物をその場で味わうことができる「日本一の味覚 天売ウニまつり」が本年第30回の節目を迎え、7月に開催されます。また、天売島観光の柱でもあるウトウウォッチングパスツアーと、昨年より再開した観光船乗船者に対し、乗物料金の助成を行い、離島への誘客を促進してまいります。

観光施設の整備につきましては、はほろ温泉サンセットプラザ露天風呂周辺の竹垣改修、浴室トイレや窓の一部取替え等を実施し、利用者の利便性向上を図ってまいります。

#### 〈労働対策〉

町内事業所における従業員の雇用増に対し助成を行う雇用促進助成制度を25年度に創設いたしました。が、昨年12月末時点で7社が制度を活用

し2名の方が正社員として雇用されたとところであります。この制度が浸透することにより、町内事業者による雇用の受け皿が更に増加し、若年者の流出抑制や定住促進への波及を期待しております。

#### 〈住環境の整備〉

町営住宅の整備につきましては、22年度から10年の計画期間で老朽化した公営住宅の効率的な建替整備を進めております。

幸町団地の建替整備は、22年度から始めており26年度以降も引き続き事業を進めてまいります。

既存住宅の維持管理については、神楽丘団地や川北A団地を中心に計画的な修繕等を行い、良好な住環境の維持管理を図ってまいります。

栄町夕陽ヶ丘団地につきましては、今後とも単独住宅として有効に利用され、効率的な運営が保てるよう計画的な維持管理を図るほか、将来の計画的修繕等に備え基金の積立を

行ってまいります。

住宅改修促進助成事業につきましては、25年度から新たに老朽家屋の除却も助成対象とし、助成期間の延長を行ったところであります。

また、町内にある空き家の有効活用を図るために空き家バンク制度を創設し、住宅を提供したい方と住宅をお探しの方のマッチングの場を提供していきたいと考えております。

#### 〈環境衛生〉

きらりサイクル工房でのゴミの資源化処理により減量化が図られておりますが、一方では心ないごみの不法投棄が依然として後を絶ちません。今後不法投棄の防止に向け関係機関と連携を図るとともに、監視カメラを設置するなど不法投棄防止対



策を実施してまいります。

また、地域住民をはじめボランティア等による清掃活動や美化運動が定着しており、引き続き町民と行政が一体となって清潔で住みよい環境の保持に努めてまいります。

羽幌産業廃棄物埋立処理場は、現在、管理団体において施設置候補地が選定されたところであり、26年度に実施設計及び環境影響調査等に着手、28年度に施設完成予定

となっております。本町の廃棄物処理、更には産業振興上で重要な施設であることから、新施設の設置に必要な支援を行いたいと考えております。

また、留萌中部3町村で進める羽幌浄化センターを活用した広域し尿処理については、26年度より工

に着手し、28年度の供用開始に向け事務事業を進めております。

#### 〈公共交通体系の整備〉

地域公共交通の要である市町村間を縦貫するバス路線については、老朽化の激しい車両の更新を順次実施していくこととし、26年度は3台の更新を行い利用者の利便性を図ってまいります。町内循環バス「ほっと号」は、今後も更なる利用者増を図るため、利用者のニーズを的確に捉え、地域の足としてより一層定着するよう努めてまいります。また、フェリーターミナルの新設に伴う新たな交通アクセスとして、フェリーターミナルとバスターミナルを結ぶシャトルバスの運行を開始しております。引き続き離島航路や高速バスを利用する観光客及び離島住民の利便性向上に努めてまいります。

離島住民の足である離島航路につきましては、昨年、新高速船「さんらいなあ2」が就航し、離島住民や観光

まいります。

#### 〈下水道事業〉

本年1月末の認可計画面積における進捗率は90%に達し、水洗化率は57%となっております。

26年度につきましては、雨水管の老朽化に伴う川北地区の雨水管整備を実施するとともに、24年度から実施しております新たな補助制度の最終年度として、水洗化普及向上のPR活動や下水道接続、切り替えの推進を積極的に行ってまいります。

#### 〈防災対策〉

災害時における避難所等の開設に必要な防災資機材の整備を毎年行っておりますが、26年度においても毛布、ストーブ、発電機等の購入に加え、新たに非常食の備蓄も行う一方、停電時等における非常電源確保のための防災対策車両として電気自動車を導入し、防災資機材の備蓄充実を図ってまいります。

また、各町内会を母体とした自主防災組織結成の推進を図るための取組や、防災訓練等を通し、災害に対

る町民の意識向上を図りながら、町民が安心して暮らせる防災体制の確立に努めてまいります。

#### 〈むすび〉

経済情勢等が目まぐるしく変化する現代社会において、個々の価値観やライフスタイルも多様化してきていることから、公的サービスに求められる分野も拡大してきております。しかし一方で、大変な時代であるもの、お互いに協力し、知恵を出し合い、新たなことにチャレンジすることで乗り越えられる課題も多いものと考えております。

このため、町民皆様の主体的、積極的なまちづくりへの参加をお願いするとともに、町民と行政が一体となつて事業を進める協働のまちづくりを推進し、本町の新たな発展のために力を注いでいく所存であります。最後になりますが、町民の皆様、そして議会の皆様より一層のご理解とご協力を心からお願ひ申し上げ、平成26年度に当たつての町政執行方針といたします。

(平成26年3月11日第1回羽幌町議会定例会登壇)



26年度は、フェリーターミナルを含む羽幌港中央ふ頭とはぼる温泉を結ぶ遊歩道を新設し、観光地としての快適性や施設利用者の利便性向上を図ることによって、地域の活性化に努めてまいります。

羽幌港におきましては、昨年4月に中央ふ頭、新フェリーターミナル

水道事業では、上下水道施設の運転管理の一元化による民間委託や企業債の繰り上げ償還による利息負担の解消など、今後も業務の効率化、コスト削減による経営の健全化を図るとともに、水道水の安全・安定供給に重点を置き、水道事業を運営してまいります。簡易水道事業においても上水道と同様、安全で安定した水道水を供給するため、各施設の維持管理を徹底し、経営の効率化に努めて